別紙様式

# 令和５年度　学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭中学校　　校長名：川嶌　秀則

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・自ら人生を切り拓く人を育てる学校
・「文武両道」を実践しながら人間性を高め、これからのグローバル社会でトップリーダーとして活躍・貢献しようとする気概を持つ生徒
・自己の在り方生き方についてよく考え、自分自身を成長させることを意識し、地道な努力を重ねる生徒
・自主活動に主体的に取り組み、意欲的かつ自律的に努力する生徒

## 学校評価の公表方法

保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

| 現状・進捗度 | | | |
|---|---|---|---|
| | A | 十分に達成している。 | （80%以上） |
| | B | 概ね達成している。 | （60%以上） |
| | C | あまり十分でない。 | （40%以上） |
| | D | 不十分である。 | （40%未満） |

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

| 番号 | 計画・取組 | | | | 評価（２月１４日現在） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 重点目標 | 現状 | 具体的取組 | 評価項目と評価指標 | 進捗度 | 進捗状況 | 今後の改善方策 |
| 1 | キャリア教育を柱として、多様な価値観を学び、国際的な視野に立って主体的に考え行動できる生徒を育てるための、中高一貫教育の充実・深化に向けた具体的な方策を確立する。 | B | ・国際的視野を高めるプログラムを積極的に周知し、「キャリア桐の葉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の探究的な学びと関連させ、自らの在り方や生き方を深く考え、挑戦する生徒を育てる。 | ・国際的な視野を高める取組の充実と積極的な周知。（生徒の参加状況）<br>・自らの在り方・生き方を考えさせる指導の充実（学校評価アンケート） | B | ・国際的な視野を高めるプログラムを積極的に周知し、実施することができた。<br>・学ぶことと働くことのつながりを意識し、自らの在り方・生き方を考えさせる指導を充実させることができた。 | 国際的な視野を高めるプログラムに多くの生徒が挑戦するよう、メインターゲットを設定し、積極的に周知する機会を確保する。<br>研究授業や公開授業では、中高相互に参観し、研究協議を行う体制を整えたい。また、高校に進学した生徒の情報交換を積極的に行う。 |
| | | | ・中高職員による意見交流や公開授業で課題を共有し、高い目標で自己実現を目指させるための指導内容を明確にする。 | ・生徒指導に係る情報交換会や公開授業の実施・見学の充実。（実施状況） | B | ・研究授業・公開授業を各教員が行ったり生徒情報の情報共有を行ったりできた。また、研究協議やバズセッションをそれぞれ１回ずつ行った。 | |
| 2 | 基礎・基本の習得と思考力・表現力の育成及び主体的な学習態度を育成するための教員の更なる指導力を向上させる。 | B | ・学び合い高め合う学習活動の質を高め、家庭学習や研究等の自発的な学習を促す授業を構築する。<br>・主体的に学習に取り組むよう、学校内外に生徒の発表や活躍の機会を多く持つ。 | ・自発的な学習と演習・定着やクラウド学習ツールを活用した家庭学習の充実。<br>・発表や対話のある授業や各種コンクール等への参加・出品。（学校評価アンケート、参加・状況） | B | ・学び合い高め合う授業を行うとともに、スタディーサプリを効果的に活用することができた。<br>・発表や対話のある授業や、各種コンクールへの参加・出品を積極的に行い、優秀な賞をいただく生徒が多かった。 | 自発的な学習や家庭学習を充実させるために、生徒の知的好奇心、成長意欲を刺激する学習活動や教材、指導者の仕掛けを充実させる。<br>難問でも、授業で学んだ内容やスキルを活用して解くことができた喜び・達成感を感じさせることで、授業への集中力を高めることに繋げたい。それを生徒が実感できるよう、定期考査問題の事前作成と授業のつながりを充実させる。 |
| | | | ・定期考査、県学習到達度調査、全国学調等を活用し、到達目標を明確にして適切に評価し、授業改善に生かす。 | ・定期考査、全国学調、県学調等の結果分析と、PDCA を有効に機能させた授業改善の実施。（分析状況と授業の実施状況） | B | ・定期考査問題の事前作成と結果分析、授業改善に積極的に取り組むことができた。 | |
| 3 | キャリア教育と有機的に関連付けた道徳教育を充実させる。 | B | ・学校行事・生徒会行事やキャリア桐の葉の授業と関連付け、道徳内容 22 項目の偏りのない指導を充実させる。 | ・キャリア教育付けたい力 30 と道徳教育 22 項目の関連づけた指導の充実。（学校評価アンケート、実施状況） | B | ・キャリア桐の葉の学習内容や学校行事・生徒会活動と関連付けた道徳の授業を進めることができた。 | 道徳教育 22 項目をキャリア桐の葉の取組や学校行事・生徒会活動で意識し実践できるように工夫する。 |
| 4 | 生徒の自主的・自立的な生活習慣・学習習慣の確立と集団の自治力を育成する取組を充実させる。 | B | ・各種アンケートを活用し、課題を抱えた生徒の早期発見に努める。また、専門家の助言を受け、生徒の自立を促す指導を充実させる。 | ・ケース会議、学校評価アンケート、人権アンケート等の結果分析、生徒への指導の充実・改善。（生徒への働きかけ状況） | B | ・生徒情報は定期的に共有し、ケース会議を適切に行った。人権アンケート、QU を活用し、学級の雰囲気や生徒の状態を把握し、積極的に指導することができた。 | QU の分析・現職教育を実施することで、各種アンケートを有効に活用し、学級経営の改善やケース会議を円滑で質の高い協議ができるように生かしていく。<br>専門委員会は、回数を多くして定期的に実施することで、PDCA を有効に機能させ、自主的な活動をさらに充実させていく。 |
| | | | ・専門委員会や学級会を定期的に実施し、学校やクラスが抱える課題について考え、解決する取組を充実させる。 | ・専門委員会や学級会を定期的に実施し、学校やクラスが抱える課題を組織的に解決する取組の充実。（取組の実施状況） | B | ・専門委員会や学級会は、回数は少ないが定期的に実施でき、学校やクラスが抱える課題に取り組む機会は充実させることができた。 | |

## 学校関係者評価（３月８日実施）

**＜キャリア教育について＞**
・多チャンネルのキャリア教育が実施され、生徒の勉学意欲につなげる取り組みが充実している。
・中高を通して段階を踏みながら体系的に実施されており、生徒の発達段階に応じた成長が期待できる。中学校での「自らの在り方・生き方を考えさせる指導」の更なる工夫と充実をお願いしたい。
・生徒に対して、現代社会には未解決で積み残された喫緊の課題や問題があることに気付かせ、持続可能な社会をつくるために社会貢献したいという意欲を刺激することも重要である。

**＜研究授業・公開授業について＞**
・研究授業・公開授業を積極的に行い、教員の授業改善に取り組んでいる。
・今後の改善方策に記載があるように、指導の仕掛けや、学ぶ喜びを実感する教育の具体的方策の研究に期待します。

**＜中高一貫教育について＞**
・中高教員による意見交換や高校に進学した内進生の情報交換を行うなど、「中高一貫教育」のメリットを発揮するための工夫が行われている。
・中高一貫校の強みを生かしたさまざまな取組は、折々に開催される発表会を通じて、桐蔭中学校の個性となっていることを実感しており、大いに評価できるところです。但し、生徒の質が変容しても、先生方の入れ替えがあったとしても、桐蔭中学校の個性が維持できる仕組みづくりは常に意識しておかないといけないと思います。
・自ら探求し、考察し、表現できる自主性のある生徒を育成し、高校に進学した時に、外進生に対してロールモデルとなるような内進生をできるだけ多く育てる必要性がある。

**＜生徒への指導・支援について＞**
・生徒情報を定期的に共有し、ケース会議を行うなど「この学び」の実現に真摯に取り組んでいる。
・子ども達に豊かな人間性を育む教育を基本に、不登校やいじめ等の問題に対して、担任の先生だけの対応ではなく、教員が情報を共有した中で、学校が一丸となって対処していただきたい。
・生徒一人ひとりについて、入学後３年の間にその適性や潜在的能力を把握するために、担任・学科の枠を超えた教員会議を継続的に開催し、保護者にも意見を伝えて、各生徒の将来的な自己実現の在り方に目を向けさせるような取組を行う必要性がある。